

学校関係者評価委員会

1. 開催日時： 2020年 2月18日（火） 14：00～15：00

2. 開催場所： 三草会札幌看護専門学校 会議室

3. 委員： 川 田 清（札幌市東区親和第一町内会 会長）
小 板 谷 敏（元㈱NTTデータ北海道 取締役）
前 鼻 英 蔵（学校法人 西野学園 理事長）
真 鍋 俊 彦（公益財団法人 北海道高等学校奨学会 監事）
渡 辺 由 美（社会医療法人 恵佑会札幌病院 副院長兼統括看護部長）

（敬称略 五十音順）

学 校： 吉 田 真 弓（三草会札幌看護専門学校 校長）
松 田 光 生（三草会札幌看護専門学校 事務長）

4. 内 容 等： 1) 学校関係者評価委員会の趣旨説明
2) 2019年度自己点検評価報告の説明
3) 評価・意見交換（改善意見、助言等）

学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価報告に関する評価・意見

項目	平均評価		ご意見・今後の課題
	2018年	2019年	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念 ・教育目的 ・教育目標 	4.00	4.00	<ul style="list-style-type: none"> ・目的は社会や環境の変化等により見直しが必要となることもあり、継続的な改善をする為に、PDCAサイクルを効率的に回していくことが必要である。 ・教育理念・教育目的・目標が明確となっており、そこに向かって取組まれていることに賛同する。
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程経営 	3.84	3.84	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム構成・実施は計画に基づき教員が役割を果たし、実践されていることが評価から感じられました。臨床側としても教員方と連携しながら良い実習になるよう努力する。 ・7ルスクールでの1年間を踏まえて、課題ごとに点検見直しを行い、今後のカリキュラムに反映させていくことを期待する。
<ul style="list-style-type: none"> ・教授 ・学習（講義・演習・実習） ・評価課程 	3.75	3.86	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間で学習する内容は非常に多いことから、教育計画に基づき実施していくことは重要と思われる。学生が効果的に、また臨床で擦り合わせが出来るような内容が求められると考える。 ・3年制の教育体制・内容が構築されていることから、今後これらの点検見直しが不断に行われることを通じて、より一層充実されたものになることを期待する。
<ul style="list-style-type: none"> ・経営 ・管理課程 	3.69	3.69	<ul style="list-style-type: none"> ・資質の高い指導者や学生を集めるためには投資が必要。適切な投資を行い、その費用対効果（社会貢献度）を中長期的にどのように評価すべきかも課題である。 ・運営方針・管理に関する目標等を示した上で取組まれていることの重要性が理解できる。 ・安定した経営の為に学生の確保が不可欠であり、そのためにも水準の高い教育を継続的に提供していくための教員体制の充実が寛容であると思われる。

項目	平均評価		ご意見・今後の課題
	2018年	2019年	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学 ・ 入学 ・ 就職 ・ 進学 	3.94	3.82	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校で学んだ結果や実績として、本人希望先への就職率100%は大きな満足度が得られます。その為に本校として何をすべきか？また今後の為にも就職後の学生動向を観察し、サポートも必要かと思えられる。 ・ 入学の選考は学力だけでなく、考え方やコミュニケーション能力等もも見極めていくなど、難しい問題ではないかと感じている。就職時も学生の希望を確認しながら検討していく必要があると考える。 ・ 今春、第1期生を送り出しましたが、学生はもとより、保護者、求人側から信頼される教育機関になっていると感じた。今後、就職先での定着状況などを把握し、学生の卒後の進路についての指導に役立てることが必要になってくる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域社会 ・ 国際交流 	3.05	3.33	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校におけるイベントや様々な活動を発信することは、広報活動としても重要ですが、ボランティアを含め、地域におけるコミュニティへの積極的な参加を定期的に行うことも必要です。そのための計画や関係者の意識の醸成を少しずつ啓蒙していくことが大事かと思われる。 ・ 地域社会との交流はカリキュラム上も調整が難しい部分もあると思うが、学生が地域のことを理解することは必要と考えられるため、機会があれば体験出来るとよ良いと思う。 ・ 学生が社会貢献できる専門職として育てていくためにも、限られた時間の中で工夫を凝らしながら、これらに取り組むことが必要である。 ・ 町内のゴミ拾い等を行っているが、もう少し町内の人達と触れ合う機会があると良いと思うが、なかなか難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究 	3.51	3.49	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の研究活動となるとどうしても実務との兼ね合いとなります。同じような研究テーマについては、グループやチーム編成を行い、それぞれ役割分担を決め、相互に支援・協力しあいながら進めることもできると思われる。 ・ 自分達の取組みをまとめることは重要で、研究発表することで評価、今後の課題の明確化に繋がるので、是非計画してもらいたい。 ・ 一定の成果を上げていると感じますが、教員が研究に取組みやすい環境の充実を期待する。